第２回　四万十町事前復興まちづくり計画策定委員会

議事概要

日時：令和８年９月 15 日（火）14:00～
場所：四万十町役場本庁３階　防災対策室

■議事次第

1　開会
2　委員長挨拶
3　議事
　(1)　第１回委員会のふりかえり
　(2)　地形条件等が類似する被災地の復興事例
　(3)　想定する地震津波
　(4)　グループ討議
　(5)　第１回地域検討会の進め方について
4　閉会

委員出席者：15 名
オブザーバー出席者：３名

■委員会出席者

	区分	地区	氏名	備考
委員長	学識経験者		矢守　克也	京都大学防災研究所（教授）
副委員長	公共的団体等の代表者 又は構成員	興津	船村　覚	大総代・興津小室地区自主防災組織
委員	公共的団体等の代表者 又は構成員	興津	嶋岡　明雄	郷分総代・興津郷分地区自主防災組織
		興津	徳弘　傅	浦分総代・興津浦分地区自主防災組織
		興津	橋本　忍	ざっくばらんな会
		興津	中嶋　崇	興津地区農業関係者代表
		興津	縄本　良仁	興津地区漁業関係者代表
		志和	山本　智恵	志和地区自主防災組織
		志和	古谷　彰三	志和郷区長
		志和	竹村　精史	志和浦区長
		志和	梶原　希美	志和はちきん防災塾
		志和	山本　貴昭	志和地区農業関係代表
		志和	諏訪　祐介	志和地区漁業関係代表
	関係行政機関の職員		西村　哲也	高知県危機管理部 総合防災対策推進 須崎地域本部 地域防災企画監
	町長が必要と認めるもの		吉岡　真佐人	(株)四万十交通　代表取締役
オブザーバー			細田　知明	UR 都市機構 西日本支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 室長
			塩間　学	UR 都市機構 西日本支社 都市再生業務部 調整役
			横村　優	UR 都市機構 西日本支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当

■議事概要

(1)　第1回委員会のふりかえり

(2)　地形条件等が類似する被災地の復興事例

（矢守委員長）

・前回7月の会議に続き、本日が2回目の会議である。来月には、代表の皆様が話し合い始めている内容を、興津地区・志和地区それぞれで、より多くの住民の方に紹介する機会を設ける計画となっている。
本日は、東北の復興事例も参考にしながら、地図の上で「この場所はこのように使っていくのではないか」「海に近いこの場所を再び使うのは難しいのではないか」といったことを話し合っていただくことを目標とする。

・前回、東北の復興事例は広い平地の事例が多く、興津・志和に似た地域の事例はないかとの意見をいただいたため、事務局で調べていただいた。後半の話し合いの時間を十分に確保したいため、議事(1)から(3)までの説明は30分程度でお願いしたい。

（事務局）

【説明】

（矢守委員長）

・志和の公民館付近や興津の小室の避難場所から見える風景に近い事例が多く、参考になったと思う。

(3)　想定する地震津波

（矢守委員長）

・先ほどの事例説明は、興津や志和に似た集落の復興事例であった。ここからは少し現実に戻って、将来やってくるかもしれない地震や津波がどのぐらいの規模なのか、もう一度復習をして基本を押さえる。

（事務局）

【説明】

（矢守委員長）

・どの規模の津波が来るかは誰にもわからない。L2は東日本大震災級の非常に大きな津波、L1はこれまでに発生した中で最大規模の津波であり、国や県もこの2つを基本に考えている。発生するまではどちらかわからないが、被災後の復興の進め方は、発生した津波の規模によって変わってくる。

・興津地区では、L1の場合でも家屋の屋根までは達しないものの浸水は生じる。津波は浸水深1メートルでも巻き込まれると助かることは極めて難しいため、L1であっても必ず避難しなければならない。ただし、L1で済んだ場合は、地区中央の川周辺の家屋などは残る可能性がある。一方、小室や浦分の漁港周辺はL1でも厳しい状況となる。L2の場合は、漁港や浜周辺は10メートル以

上浸水し、郷分の住宅地もほぼ全域が浸水し、学校の屋上付近まで浸水が想定される。

・志和地区では、L2 の場合、集会所（旧小学校の体育館）付近まで津波が到達するが、L1 であれば旧小学校周辺は浸水しない。L2 の発生は千年に一度程度といわれており、次の津波が L1 程度にとどまる可能性の方が高い。発生するまではどちらかわからないため、避難は L2 で準備しつつ、被災後の復興はどちらの規模であったかによって考え方を変える必要がある。

・被災後になってから考えようとしても、被災した住民には考える余力がない。起こる前に考えておくべきというのは東北の方々の実感でもある。例えば、ハウスは日中の作業場所であるため現在の場所で再建し、住宅は高台に確保するといった計画を、候補地も確認しながら皆で立てていただきたい。

（委員）

・両地区とも、L2 の津波を想定して避難場所等を整備している。高台を整備する場合も、将来的なことを考えて L2 に耐えられる高さで整備すべきだという説明だったか。

（事務局）

・避難対策については、どちらの規模の津波が来るかわからないことを踏まえ、避難タワーや避難場所は L2 より高い場所としている。一方、将来のまちづくりについては、必ずしも全てを L2 より高い場所とする考え方だけではない。地区として L2 より高い場所に居住地を確保するという考え方を共有できれば、その方向性となる。一方で、L2 規模の津波に対しては避難で対応しながら、できるだけ現在の場所に近いところに住みたいという方がいれば、検討を始める段階では、その選択肢を否定するものではないと考えている。

ご指摘のとおり、事前に居住地として高台を造成する場合は、将来再び津波が来る可能性があるため、L2 で考える必要がある。

（矢守委員長）

・基本的には委員の指摘のとおりであり、あえて高台を造成するのであれば、L2 に耐えられるようにすべきと考える。ただし、住居ではなく、日中の農作業等に使う土地のかさ上げであれば、L1 程度でもよいという考え方もあり得る。この点も含めて話し合っていただきたい。

（事務局）

・モニターの地図では、避難所や仮設住宅の候補地（B&G 海洋センター周辺）など、より広い範囲を確認できるため、避難生活や仮設住宅に関する意見もいただきたい。

（矢守委員長）

・両地区の範囲内だけで考える必要はなく、一時的に東又地区などで生活することも考えられるため、広い範囲で考えていただきたい。

(4)　グループ討議

興津地区・志和地区の 2 グループに分かれ、ハザード図を用いて討議を行った（討議結果は別添図のとおり）。

＜興津地区＞

【発表】

(委員)

・住民の間で、高台へ移転するものと考えている人、高台を造成するかどうかを検討している人、防潮堤を整備すべきと考えている人など、認識が統一されていない。防潮堤については、台風等の大雨の際に水が引きにくくなるのではないか、川から津波が遡上するため防潮堤は必要なのかといった意見もあった。

高台移転の候補地が 1 か所示されたが、全員が入れないのではないかという懸念があり、他の候補地についても話し合った。興津地区は小室・郷分・浦分の 3 地区に分かれており、地区ごとに住むか、行政サービスを受けやすいよう 1 か所にまとまるかについても意見が出た。

漁港は 2 か所あり、そのまま復旧したいという意見がある。農業者は被災後も同じ場所で農業を再開したいという気持ちがあるが、防潮堤を整備すると 20 棟程度が移転しなければならなくなり、用地の問題も生じる。

高台を整備するにしても、被災後に興津へ下る道路（1 本のみ）がすぐに整備されるのかという課題がある。毎年、県に 1.5 車線化を要望しており、被災時に少しでも道路が残っていれば作業も円滑になると考えられることから、要望を継続していきたい。また、道路が寸断された場合のドローンによる物資輸送や、高台の造成候補地についても話し合った。

(矢守委員長)

・議論の内容や中心的な課題がよくわかる報告であった。前提を統一しないと意見がまとまらないという指摘は大変重要である。また、アクセス道路の 1.5 車線化のように、現在着実に進められている取組が復興にどのように役立つかという視点も大切である。

＜志和地区＞

【発表】

(委員)

・L1 想定と L2 想定の 2 通りで話し合った。海沿いの浜の地区は、L1 想定でも浸水して生活を再建できるような状況にはないと考えられ、新たに住宅を建てる人は少ないのではないかとの意見があり、そのため、海沿いは盛土をするという選択肢もあると考えられる。

防潮堤については、山側で農業を営む地区では、L1 想定程度でもよいのでまず整備する。農地を守りたいという意見がある一方、景観を気にする意見もあり、今後のすり合わせが課題である。

高台移転については、コミュニティセンター周辺や、谷の高台を切土・盛土により造成できる場所があるのではないかとの意見があった。これに関連して、志和坂は長く折り返す道路であるため、標高差はあるが、コミュニティセンター上部から海側へ短く下ろす新たな道路を整備し、窪川方面へ行きやすい動線とできないかという意見があった。

水道ポンプが浸水想定区域内にあり、L1 でも被災するおそれがあるため、浸水しない場所に移転し、維持管理の負担が少ない形でインフラを整備していきたい。

薬師寺は残していきたい。神社については、郷と浜でそれぞれある。人口減少や費用面から統合や規模の縮小もやむを得ないと考えられるが、残したいという意見も出た。

谷の奥も高台移転の候補となり得るが、近年の大雨で増水し、住宅の庭が土砂で埋まるほどの被

害が生じた場所であるため、候補から除いて考えることとした。
沖合に防波堤を整備すれば台風の波も防ぐことができるが、莫大な費用がかかるため難しいとのことであった。

（矢守委員長）
・高台移転の候補地について十分に検討いただいたことがよくわかった。薬師寺など何を守っていきたいかは、事前復興まちづくり計画を考える上で大切である。また、水道や道路などのライフラインは非常に重要な視点であり、全て網羅されていた。

＜関係機関等からのコメント＞
（委員）
・矢守委員長の話にもあったように、ゼロベースから多くの意見が出てよかった。県では、被災後のための計画にとどまらず、被災前から前倒しで実施できるものは前倒しで実施していく方針で、全県的にこうした計画づくりに取り組んでいる。
・熊本地震の際に発災翌日から現地に入った経験から、住まいとともに、ライフラインについては、被災後もL2に対応できる場所で、維持管理の負担が少ない新技術を活用し、水道、できれば電気やトイレも十分に備えておくことが重要である。
・四万十川流域の重要文化的景観に携わった経験から、地域の大切なものを守っていくことは重要である。四万十町では「観光地化しない観光地」というフレーズもあり、そうした視点も今後計画に盛り込んではどうか。

（委員）
・両地区の付箋の意見を拝見し、区長をはじめ地区の皆様が意見を把握し、危機管理課と共通認識をつくっていくことが期待される。興津地区は保育所周辺が高台移転の候補地になるのではないか。志和地区は学校周辺も低いため、もう一段高い場所への移転も課題になると感じた。
・命と住み慣れたまちを津波で失わないよう、今後も素晴らしい地域であり続けてほしい。

（オブザーバー）
・URは能登に事務所を置き、復興支援を行っている。能登半島地震では、事前復興計画がない状態で被災し、多くの方がそれぞれに避難し、遠方に移られた方も多かったため、その後の話し合いが非常に難しいことが課題となっている。
・その中でも、同じ災害公営住宅や避難所、仮設住宅に避難した方々が先に高台移転を決め、4地区程度で事業が進み始めていると聞いている。本日の話し合いを聞き、復興にはコミュニティが本当に重要であると改めて認識した。今後のワークショップでは、さらにコミュニティが深まるよう話し合っていただきたい。

(5)　第1回地域検討会の進め方について
（事務局）
・資料37ページのとおり、令和8年度から令和9年度にかけて、委員会と地域での検討会を交互に重ねながら進める予定である。次回は10月18日（日）に地域での検討会を予定している。

・地域での検討会の進め方について、次の 2 案を相談したい。

（矢守委員長）

・両案とも、10 月 18 日（日）に、両地区で午前・午後に分けて開催することは共通である。
【プラン 1】各地区の委員に加え、15 名程度に声をかけていただき、20 名程度で本日のように地図を囲んだ話し合いを行う。具体的な議論ができ、意見を言いやすい一方、参加者を限定せざるを得ないため、一部の人だけで大事なことを決めていると受け取られるおそれがある。
【プラン 2】住民全体に参加を呼びかけ、事前復興まちづくり計画の趣旨やこれまでの検討内容を共有する。多くの方に参加いただける一方、説明会的な内容になりやすい。
どちらのプランがよいか、また 10 月 18 日の開催でよいか、意見をいただきたい。

（委員）

・興津八幡宮の秋祭りが 10 月 16 日まであり、地区の役員は多忙であるが、10 月 18 日であれば開催可能である。

（委員）

・10 月 20 日以降は生姜の収穫が始まり繁忙となるため、18 日の開催で構わない。

（委員）

・住民全体に呼びかける形でよい。参加者が少なければ、少人数での検討会形式とすればよい。

（委員）

・志和地区は当日午前中に神社の清掃があるため、午後に開催する方がよい。

（矢守委員長）

・次回は、10 月 18 日（日）に住民全体に呼びかける会として、興津地区は午前 10 時から正午まで、志和地区は午後 2 時から午後 4 時までを目途に開催することとする。参加者が少なければ本日のような話し合いも可能であり、多数の場合は進め方を工夫する。事前の参加者数の把握の方法等については、事務局に一任する。

以上

四万十町 興津地区 ハザード図(L2)

興津地区
第2回委員会検討結果

県道興津窪川線（道路）について

ルートは県道のみであり、被災後の復旧・復興の工事用道路としても重要。

別ルート（新たな道路）の整備は困難。

現道の拡幅は道路啓開や復興にも重要。事前復興の観点からも県への要望を継続する。

土砂崩れ等で寸断された場合に備え、迂回路や仮設橋の確保も必要。

農地について

農地はできるだけそのまま復旧したい（収穫が多く優良な農地）。

ハウスは日中の作業場所のため、現在の場所で再建できるのでは。

住宅地を移転する場合、跡地を農地として利用できる可能性がある。

担い手不足の農地は、集約して組合等で営農できないか。

防潮堤用地として農地が必要であるが、優良農地のため手放せないのではないか。

防潮堤の整備について

防潮堤を整備すれば、現在の場所で住める可能性がある。ハウスを台風の波や潮風から守るためにも必要。

安全な高台に住むのであれば、防潮堤を整備する必要は無い。

防潮堤を整備する場合は水門が必要。川から津波が遡上するため防潮堤だけでは防げないのでは。洪水時の水はけも悪くなる。

防潮堤を整備する場合、農地や砂浜に影響が及び、20棟程度の移転も必要となる。景観も大きく変わる。

被災直後の対応

ドローンで峠道（県道）の被災状況の早期確認や物資輸送ができないか。

話し合いの進め方

高台移転・防潮堤などに対する住民の認識が共有できていない。被災後か被災前か、考える起点を共有して話し合う必要があるのではないか。

漁業について

漁港（小室・浦分）などの漁業施設はそのまま復旧したい。

居住地（高台）・生活再建について

高台に居住地を造成する場合は、将来にわたって安全な場所（L2津波に対して安全な場所）を確保する。

県道沿い、保育所周辺が適地ではないか。

県道に近い場所で山を切土して宅地にしてはどうか。盛土は将来沈下のおそれがあり避けたい。

3地区（小室・郷分・浦分）ごとに再建できる場所があるか。1か所にまとまる方が行政サービスを受けやすいのでは。

小室、浦分の背後に高台を造成できないか。→地形が急峻で困難。

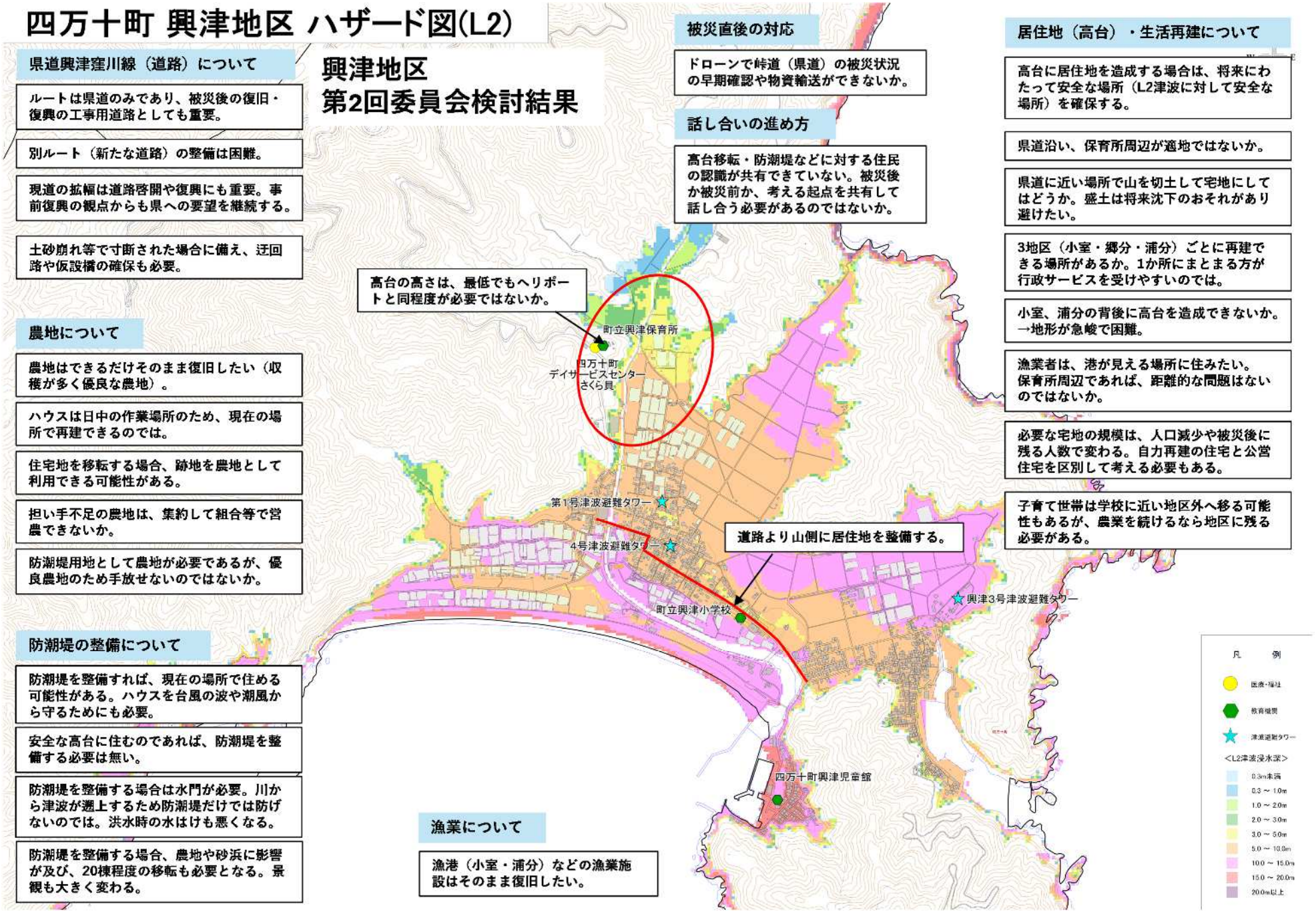
漁業者は、港が見える場所に住みたい。保育所周辺であれば、距離的な問題はないのではないか。

必要な宅地の規模は、人口減少や被災後に残る人数で変わる。自力再建の住宅と公営住宅を区別して考える必要もある。

子育て世帯は学校に近い地区外へ移る可能性もあるが、農業を続けるなら地区に残る必要がある。

高台の高さは、最低でもヘリポートと同程度が必要ではないか。

道路より山側に居住地を整備する。



四万十町 志和地区 ハザード図(L2)

志和地区
第2回委員会検討結果

水道・ライフラインについて

- 水道ポンプ（取水施設）が浸水想定区域内にあり、L1でも被災するおそれがある。
- 移転する場合は水道設備も含めて浸水しない場所へ。維持管理の負担が少ない形で整備したい。
- 井戸水（地下水）を手押しポンプ等で使えるようにできないか。
- 停電するとすぐに水が出なくなる。発電機で一時的に対応できないか。

高台移転・居住地について

- 少しでも安全な高台へ移りたい。
- L2津波を考えると、谷の奥まで行かないと避けられない。
- コミュニティセンター周辺や裏山が高台の候補地ではないか。
- 舟頭周辺に高台を造成し、主要なインフラも集約させる。
- 盛土は15m盛っても沈下するおそれがある。切土部分に住みたい人が多いのでは。
- 造成地（盛土・切土）に何世帯住めるか。
- 谷の平地は津波は来ないが、大雨で浸水・土砂流入のおそれがある。

残したいもの（寺社・施設）

- 薬師寺・コミュニティセンターは残したい（皆が集まれる場所が必要）。
- 神社・寺の再建は財政・担い手の面で難しい。神社仏閣はまとめることになるのでは。

道路について

- 志和坂はU字に折り返す長い道路。コミュニティセンター上部から海側へ短く道を下ろしたい（窪川方面へのアクセスも向上）。
- 漁業者は早朝・深夜に出入りするなど生活リズムが異なるため、交通アクセス（動線）を複数確保してはどうか。
- 高台を造成するなら、道をつなげる（図中の点線）。

防潮堤の整備について

- 郷分は農地を守るため、L1程度でもよいので防潮堤がほしい。
- 浦分の人は景観の面から堤防を建てたくないのでは。
- 防潮堤を築くなら、川沿いの堤防のかさ上げか水門の整備も必要。費用・維持管理も課題。
- 川は大雨で越水しそうになったことがあり、風水害に弱い。
- 沖合の防波堤は台風の波も防げるが、莫大な費用がかかり航路の支障にもなる。

浜の地区について

- 浜周辺は、今の県道（海岸）と同じ高さまでかさ上げしてはどうか。
- 海の近くは高齢者が多い地区。L1でも浸水して生活再建は難しく、新たに住宅を建てる人は少ないのでは。
- 漁師は漁港から多少離れて住んでも問題ないのでは。網小屋等は浜側に置けばよい。

津波想定・話し合いについて

- L1想定も、言い伝えや昭和南海地震（3m以内）と比べ大きすぎる気がする。
  →過去2,000年の津波堆積物の調査では、L1規模の記録がある。
- L2想定で高台移転した後、L1で済んだ場合も予算は優先されるのか。
- 家が残った人が住み続けたい等、意見がまとまらないと話が複雑になる。

